バランスシート考

　BS と PL の役割と見方がわかれば、バランスシートについては、ほぼ飲み込める
BS
決算時に、その企業は、
「どのくらいの債務を負っており」(負債)、
「どれくらいの資本を持っており」「これらのお金でどんな資産を手に入れ」(資産)
「差し引き、どれくらいの資産があるか」(純資産)
をまとめたもの。
PL
この 1 年間(もしくは四半期)に、その企業は、
「どれくらいの収益を得て」
「どれくらいのお金を必要経費等に使い」
「結果、どれだけの利益が出たか」
をまとめたもの。

　このうち BS について理解するには、「複式簿記」をざっくりと知っておいたほうがわかりやすい。
　複式簿記とは、右側と左側をセットにして、お金の出入りを管理する帳簿の付け方。
帳簿の教科書では、右側「貸方」左側「借方」と説明しているが、おそらく、意味がわかる人は稀だと思う。
　そこで、わかりやすく
右側は「ライアビリティー&キャピタル(負債と資本)」、
左側は「アセット(資産)」と考えればよい。

右側が入ってくるお金で、それがどのように変わったかを左側で見ている。
複式簿記では、右側と左側で「1 つのお金の取引」を表す。

例で言えば、稼いだお金、もしくは借金は、右側、それで得たものは、左側に入る。

特に「誰の」BS なのかは、常に意識する。
会計がわからない人は「誰の」と言う基本がおろそかになって、資産だとか負債だとかに気をとられてしまう。この「誰の」BS かは、常に意識してほしい。

複式簿記
　複式簿記では、右側には「お金の出どころ」、左側には「そのお金が形を変えたもの」が

入る
負債は「いずれ必ず返さなくてはいけないお金」であるのに対し、
資本は「返す必要のないお金」と言える。
　たとえば、
銀行からお金を借りたら右側に入る。
その他、社債を売って得たお金も借金だから、右側。
自分で用意した「資本金」や、株を売って得た「出資金」も右側。
また、事業を行った結果「利益」が出たら、これも右側に入る。
では左側には、何が入るのか
銀行からお金を借りて、製品を作る機械を買ったなら、右側の「負債」に借りた金額、左側に機械の金額が入る。
右から左へとお金が流れている、変化している、と考えればいい。

　このように「何らかの方法でお金を得て、それを何かに変える」と言う企業活動は、一つひとつ、複式簿記で記していくことができる
こうしたお金と物の取引は、日々、複式簿記で管理するのは、会社の経理部の主な仕事である。

「複式簿記の基本ルール」
右側には「企業活動に関わるお金の出どころ」
左側には「そのお金が形を変えたもの」が入る。
この情報が 1 年分積み重なったところで「決算」となるが、ここで 1 年分の帳簿は「BS」と「PL」の 2 つの書類でまとめあげられる。

企業の財務書類は、まず BS から見ていくのが基本。
形は複式簿記の帳簿と同様に、右側と左側に分かれている。
右側「お金の出どころ」、左側「そのお金が形を変えたもの」と言う関係性も同様だが、
決算書である BS では、右側は「負債の部」と「純資産の部」に分かれている。
「いずれ必ず返さなくてはいけないお金(負債)」か、「返す必要のないお金(純資産)」かを、分けて記載する。
項目ごとに数字がズラリと並んでいるが、とりあえず「際立った数字=額が大きい項目」に注目してみる。
額が大きい項目を見ると、その企業は、どんな資産に多くの資金を注ぎ込み、多くの運用益を得ようとしているかと言う、経営姿勢みたいなものが見えてくる。
そこから、その企業の本当の顔が浮かび上がってくる。

(企業活動)
　企業は資金を得たら、必ず何かしらの資産に変えている。
資産と言うのは、製品を作る機械であったり、不動産であったりと、様々。
例えば､同じ5000万円でも現金で持たずに設備と言う資産に変えれば､製品を作って売り、利益を得ることができる。
　もしくは、1億円の資金を不動産と言う資産に変えれば、賃料が入る。
その不動産を1億1000万円に上がった時に売れば、1000万円を儲けることができる。
つまり、「単なるお金」が、「収益を生むお金」になる。
これが、現金と収益の違い。
　こうしてお金の「調達」と「運用」を繰り返すことで、少しずつ資産を増やし、会社を発展させていくことが、企業活動と言うものなのである。
BSには、そんなお金の「入りと出」「調達と運用」の、ある時点での成果が記される。
つまりBSを見れば、その企業が調達した資金で、どんな資産を得ているのかがわかる。

つぎはPLを眺める
　商売をしている以上、まず「売上げ」がある
さらに「仕入れ」、「水道光熱費」、従業員への「給与」など、費用として消えてしまうお金もある。
　こうした 1 年間のお金の出入りの結果、どれだけ利益が出たのかも、決算書では明確にしなくてはならない。
そのためにまとめるのが、PL(損益計算書)と言うわけだ。
また､PLには有価証券報告書(財務局長と証券取引所への提出が義務付けられている上場企業の財務の開示書類)だと、事業ごとの収益と利益も明記した「セグメント情報」もついている。
これを見ると、より企業の本当の顔が浮かび上がってくる。

BSとPLの違いをストックとフローで説明する
ストックとは「特定の時点の数字の話」
決算書のBSも、決算時と言う特定の時点の「負債、純資産、資産」の状態を示しているからストックの話である。
負債や資産は、過去からの蓄積だが、「決算と言う特定の時点で、それらはどうなっているのか」をまとめたもの。
対するフローとは、「ある期間の数字の話」
PLは「1年間」のお金の出入りをまとめたものだから、PLは、フローを示すもの。
この違いがわかれば､PLは､BSよりずっと理解しやすい。費用は細かく分かれているが、それはあまり気にしなくて良い。

1年間で、どれだけの収益があり、そこからどれだけの費用が差し引かれ、
結果、どれだけの利益の上がったかを示すのは、PLである。

では実際のPLとは、どんなものか。
　まず、「売上高」は1年間で得た収益。そこから、仕入れを指す「売上原価」を引いたものが「売上げ総利益」。
この「売上げ総利益」から「販売費及び一般管理費」を引いたものが「営業利益」。
具体的には、水道光熱費や、従業員への給料、機械のリース代、オフィスの消耗品費、交際費等は、この「販売費及び一般管理費」に含まれる。
「営業利益」とは、つまり「収益から、仕入れ費用と、営業にかかる必要経費を引いた額」=「その企業が事業によって得た利益」と言うこと。

「営業外収益」は、主に利息、配当の収益、「営業外費用」は、主に利息の支払いを指す。
この差し引き金額を、先の「営業利益」に合計した額が、「経常利益」となる。
さらに「特別利益」「特別損失」と言うものもある。
例えば、持っていた不動産を売って得た利益は「特別利益」。「特別損失」は、持っている不動産の価格が下がり、そこから得られる収益が損なわれた、といった場合に計上される。
これらの差し引き金額を「経常利益」に合計すると、「税金等調整前当期純利益」、
そこから法人税等の税金を引いた額が「当期純利益」。
1年間の売上高から、様々な費用やその他の収益、支払い、さらに税金を、足したり引いたりした結果、「企業は、この1年間でこれだけの利益を出ましたよ」と言うことである。
こうしてPL上ではじき出された利益は、1年間の取引の「結果」と言える。

決算時と言う「特定の時点」の金額だから、最終的にはBSの「純資産」の1部にのっけられる。

(注目すべきこと)
一般的な感覚では、「借金=なるべくしない方が良い、悪いもの」なのだろう。
起業家なら、お金をどのように工面して、それをどのように東高考えるものが
なぜ、金曜は必死隙の際に男大家と言えば、企業のために強だからで、銀行からお金を借りて、〇〇現金(予言)のまま持っておくと言う事はまずない。
借りたお金で稼げず、利息だけ払うのではダメである。債務を負うことで資産を得るのである。
重要なのは「負債と資産のバランス」である。

BSの右側「お金の出所」をさすが、これには大きく分けて3つある。

「誰から借りたお金」(借入金や社債)、
「自分や他人が出資したお金」(株主資本)
「自分で稼いだお金」「(利益剰余金)。
この 3 つのうち、
「誰から借りたお金」は「負債」に入り、
「自分や他人が出資したお金」「自分で稼いだお金」は「純資産」(資本)に入る。
そして、「負債」と「純資産」の合計額は、左側の「資産」の合計額と一致するが、これは、それほど意味がない
定義のようなもので、これから意味のある結論が出るわけではない。
逆に言えば「資産から負債を引いた額」が「純資産」と言うこと。
会計の本を見ると、純資産は資本のところに書いてある。もともと、この部分は株主から資金調達した分なので、資本の部ということもできる。
右側の「負債」も「純資産」も、不動産や有価証券など、何らかの「資産」へと形を変えて左側に流れている。こうした資産に変わっていない分は「現預金」としてちゃんと左側に計上される。
だから「資産」から「負債」をひいたら「純資産」になると言うのは当たり前なのだが、この大きさ、つまり「正か不可」が問題なのである。
例えば、
資産は「現預金 40 万円」「不動産 100 万円」「有価証券 10 万円」合計で 150 万円、
負債は「長期借入金 80 万円」「社債 20 万円」の合計で 100 万円
したがって、
「資産合計 150 万円」マイナス「負債合計 100 万円」イコール 50 万円となる。
これが純資産の「資本金 40 万円」+「利益剰余金 10 万円」= 50 万円と一致する。

「負債額だけ」「資産額だけ」を見ても、財務状況はわからない
「グロス」と「ネット」と混同してはいけない。
「グロスで見る」と言うのは、バランスシートの負債額だけ、あるいは資産額だけを見ると言う事で、
負債額と資産額の総額を、あえて別個に見たい場合はグロスで見れば良い。
だがそれだと企業の財務状況は正確につかめない。
例えば資産額 5000 万円の A 社と、資産額 1 億円の B 社。
資産額だけを見れば、A 社の倍の資産をもった B 社の方が優良企業に見える。
企業の財務状況を正確につかむには、「資産と負債の差引額」を見なくてはいけない
これが負債や資産を(グロスではなく)ネットで見る」と言うことであり、BS で言えば「純資産」を見ると言うことなのである。
例えば A 社の「純資産は、4000 万円、B 社の純資産は、1000 万円だから評価は逆てんす

る。財務状況においては A 社の方が優良企業と言うことになる。負債額から考えてみても同様。